第VI部門

未経験外国人研究者に産業廃棄物の処理、運搬、リサイクル事業の内容を、 片言の日本語で解り易く理解させるための技術者教育の取り組み事例

> 株式会社セーフティーアイランド 赤澤 一憲 長崎大学 正会員 ○FLEMMY SAMUEL OYE 株式会社セーフティーアイランド 神田 純一 株式会社セーフティーアイランド 樽井 秀典 長崎大学 正会員 大嶺 聖

1. はじめに

株式会社セーフティーアイランド(代表取締役 赤澤 一憲)は2001年6月に設立し、汚染土壌や建設系廃棄物の中間処理を中心に事業を展開している。2020年12月1日より大栄環境グループ 大栄環境株式会社(代表取締役 金子文雄)の一員になった。大栄環境グループは近畿・東海圏を中心に東京、東北、北海道を含め30ヵ所の再資源化施設を展開、また全国32ヵ所に2,170haの森林を保有し、廃棄物等の資源化、エネルギー創出、市町村保有施設の運転管理、森林保全事業等を通じ、環境づくりに取り組む。

同社はグループ化と近隣施設との連携で運営を効率化するとともに施設の新設、リニューアルで事業を拡充し、近畿圏の経営基盤の強化を目指している。2023 年 4 月からは事業所の人手不足、技術継承の目的に外国人研究者のインターシップの受け入れを開始した。外国人研究者は大学研究室で日本語に接する機会が少なく、日本語しか通用しない企業に技術者として就職する機会は皆無である。

一方、日本の産業廃棄物の処理、運搬、リサイクル事業では労働災害の撲滅、労働安全衛生対策が重要だが、未経験者の外国人に事業の内容を片言の日本語で解り易く理解させる方法が確立していない。さらに、大栄環境グループが掲げる資源循環型社会を理解させるには多大な時間と労力が必要となる。同グループの廃棄物処理、運搬は一般廃棄物と産業廃棄物にわかれ、リサイクルも多種多様だ。そこで、小学生でもわかる「家庭のごみのゆくえ」の図で例えながら、同グループ内での株式会社セーフティーアイランドの位置づけを説明する社内研修資料を作り教育研修を行った 1)。本論では、長崎大学教授大衛聖氏指導のもとに外国人研究者インターシップの技術者教育概要を述べる。

2. 施設概要

株式会社セーフティーアイランドの施設は神戸市東灘区にあり、敷地面積は4,901.7坪。北側に車両出入口、南側に占用バースがあり、汚染土壌の積み下ろし及び再生砕石積み出しが可能である。施設は北側から順に、B棟のがれき類破砕処理施設、D棟の無機



図 1. 株式会社セーフティーアイランドの施設概要

汚泥造粒固化施設、A棟の混合廃棄物選別・破砕施設、C棟の汚染土壌浄化施設がある。それに付随して、B棟には運輸管理課(配車/運輸安全・運行管理)、本社屋には総務課と営業課と生産管理課がある。

Kiyoshi OMINE, Flemmy Samuel OYE, Kazunori AKAZAWA, JInithi KANDA and Hidenori USUI akazawa8049@dinsgr.co.jp

2023年度関西土木工学交流発表会

3. 営業品目

株式会社セーフティーアイランドの営業品目は 1. 産業廃棄物の中間処理、収集及びリサイクル、2. 産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の収集運搬、積み替え保管、3. 生コンクリート及びその成型品の製造販売、4. 残土の収集、及び処分 5. 土壌、及び地下水汚染に関わる調査及び除去などの処置、6. フロンガス類の回収業務、7. 前各号に付随関連する一切の業務である。

3. 未経験者外国人に事業の内容を、片言の日本語で解り易く理解させるための取り組み

小学生でもわかる「家庭のごみのゆくえ」の図で例えながら、大栄環境グループ内での株式会社セーフティーアイランドの位置づけを説明する社内研修資料を作り教育研修を行った。まず、4. 残土の収集、及び処分と 5. 土壌、及び地下水汚染に関わる調査及び除去などの処置が、資源ごみに書かれた点線内に相当し、汚染土壌を収集、大栄グループの資源化施設に送るための前処理を行う。1. 産業廃棄物の中間処理、収集及びリサイクル、2. 産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の収集運搬、積み替え保管、3. 生コンクリート及びその成型品の製造販売は、燃やさないごみと粗大ごみ. 書かれた点線内に相当し、産業廃棄物の中間処理、収集を行い、大栄グループのリサイクル施設または埋め立て処分場に運搬する。以上のように、同グループ内での株式会社セーフティーアイランドの位置づけを社内研修資料で教育研修を行った。

4.まとめ

株式会社セー フティーアイラ ンドは神戸東灘 区にあり、都市 部に位置する。 このため収集と 運搬と、大栄グ ループの再資源 化施設の前処理 施設として特化 した付加価値を 備え、近隣再資 源化施設と連携 を図り、効率的 な運営、相乗効 果が得ている。 この社内研修資

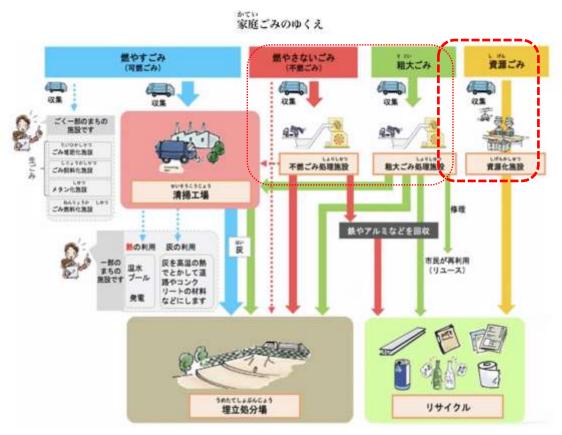


図-2 小学生のための環境リサイクル学習,ごみのゆくえ1)

る産業廃棄物業界の発展のために人材育成に努めたいと考えている。

参考文献

料での教育研修

を通じてさらな

一般社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター: 小学生のための環境リサイクル学習, ごみのゆくえ, WEB サイト, https://www.cjc.or.jp/j-school/a/a-3/a-3-1/